国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

一

之將ニ書載ニ之以明ニ其ニ与ニ其存
来ニ之者ニ乞ニ相遵ニ之様ニ可申觸
旨ニ代官ニ可申哉事
御代金取集ニ成ニ其ニ可申ニ
成ニ之以明ニ代官ニ向寄ニ之出
定難法不及ニ様ニ可申ニ付向編年代
おこいたるまで私曲ニ付志ニ成不仕急
度取計ニ様ニ可申ニ付事
如ニ様ニ代官ニ可申ニ候ニ以上

四月

享保十一丙午年四月

先年ニ当ニ御御堂ニ山修復ニ
成ニ付請ニ取ニ對ニ加ニ成社家ニ
又ニ新ニ也ニ付膳手ニ付弟ニ
其ニ見ニ而ニ御御進仕ニ又ニ其

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

享保十二年九月

安藤對馬守殿御渡

大目付ハ

南都興福寺橋夫之伽藍造立ニ成

諸国勧化之事一ニ寺院ハ門跡大寺院

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1　　ガラス使用

元祿年中に建立し御新規
同然之社故其家之助力曾る所之
事は其後は猶ほ其家之後は清和
源氏之万石以上之事に遍照之所
東谷勤化者殊に其家之條助力者之
極つ故に万石以下之者は百志
御弟助力可有之に
右之通寄之可致建に以上
五月

享保十七壬子年閏五月
先年之事に京六條王社別當之遍
照山院東谷勤化之後は旗本之西之
後清和源氏之分に可去旦事之に相
大繁多之後ニ付其事者は後も難
事ニ付る所支配に可去旦に習所支配より
我世話志御弟之勤化者に相ニ可致
に為年寄中支配寄合之事ニ
は月月之内ニ我世話に相可致

[illegible]
右之通既有紀見之西之[illegible]
至五月

享保十七壬子年六月
卯後
本都興福寺伽藍造立為助力淺草
観音地中ニ[illegible]於ケ年之曾三月

七月十一月日比河門天[illegible]実ニ 御月
[illegible]
之通[illegible]
卯ハ町中[illegible]
卯[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
二月

享保十八癸丑年七月

申渡

豆州三嶋大明神社主

神主

三嶋大明神社小破修復ニ付而金三
百両拝借願 御修復大津借金三百
両返済残之儀大坂屋与三郎方ニ而済ニ
貸置年賦残金百四拾両無滞相済与三郎請取
之都合四百四拾両無滞差上金子去ル方ゟ借
附置之処去ル寅年ゟ利金ニ而也
年々修復料済ニ付拾両宛利金
ニ而修復多分之利金年々延ニ
申付ニ利金ニ而去ル年ゟ修復入
用済ゟ以て元金ニ相加ヘ借付ニ相
ニ付右借銀出金済与三郎方ゟ申
渡ニ付相請取済相渡之請取可旦那
与三郎ゟ請取置申候
但大津借金三百両与三郎方社

住僧浚除金之内ニ而借
被　仰付候而細川勘定奉行
之旨被仰候
七月

享保十八癸丑年三月
申渡
仁和寺
御門跡

右當寺出家之旅僧五寺正五九
月廿三日被具候ニ付保見當年五
月より申年正月まて深川
永代寺境内ニ而出開帳
御許
三月

享保二十乙卯年三月

仙波

御宮江ハ修復之儀願ニ付金五百両拝
借被仰付候処返納之儀ハ利金を
以り被下置候間向後大破之節ハ
修復可被仰付旨被仰渡置候處
此度拝借之儀申出し候ニ付相伺ハ及
下知ハ[illegible]十ケ年切ニ御定法之
候御定法之儀ハ寺社奉行ヘ申渡し候
御定書[illegible]候ハ

相通し候ヘ共寺社奉行[illegible]
可差出金子下ケ渡候ハ

三月

享保二十乙卯年七月

大阪

南都興福寺[illegible]廿四日[illegible]
此度之儀ハ其地町中ヘ[illegible]

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1　　ガラス使用

戸を本所に而は新発の前方坂を豊後
町御代所にて之義成は先年ニ而
弱は通志にて者ニ而押るすし免は
後望之者無用は
始し通之ニ而弱は
二月

元文四巳未年六月

御定書ニ付ハ
本所
四維漢寺

鉄制去ル年去年ニ成今執行は前
此以後本鑄物雑本以ニ付る武士
方并関八州御代ニ成ニ付ハ
此後ニ雑本事ニ付ハ鉄制之事
を宗体ニ付一ニ成は此ニ成執行ニ
相ニ事ニ付寺領ニ其ニ付る事

旨を申上に而有之故其来五百俵之
百金以前萬年銭制一度古新相比来
之案分を以又四年目子一度古新可
申に如此増之銭制絶而申以極
可致に即膳之為排に寄之
後付る別帳を以相之通其来之
百金に
相之通大是城前ちに申渡以前可
請に

六月

元文五庚申年六月
松平右近将監殿其後
大月付に
河州菱田八幡宮乾破損事保十
五年
公後より度其寄附し不足之上

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

右之通ニ候ハ右通ニ候

中六月

寛保二壬戌年三月

中後

様家天主寺修復ニ付勤化之事

去ル戌年中後主ニ前ニ請求之通ニ付

付ニ高地町方勤化高年ニ付

及延引ニ候ニ付後主加帳ニ付

ニ付勤ニ付先年之中後主ニ通寄

之ニ付ニ付勿論志望之者ニ押

乃勤ニ候ニ用ニ

三月

寛保二壬戌年四月十六日

法月様ハ

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

雲州日御崎
三位換校

出雲玉
因幡玉
伯耆玉
播磨玉
備前玉
安藝玉
石見玉

右日御崎社及大破仰之時御復為
助力勤仕
御免ち社年行連印之勤仕時
年来亥年より丑年迄御料私
領ち社領在町ニ於巡行習志し
家を拘之多少ニよりて御家進
告は領を時代貴私領を領主地
所より下御後は

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

すり下御ハ

寛保二十戌年五月九日

是日御ハ

大塚

護持院権僧正

右筋坡山社雲及大破ゆゑ御修復

為助力者陸下御代

御免ち社を行連帯之御代状持

糸当戌年より亥年まで目料私領

幸社領在所下役巡行習志之事

ハ物之多少ゆゑ御下役者進去候

料を代官私領を領ゑ地所ゆ

下御ハ

右之通下ゑ右御ハ

六月

寛保二壬戌年五月十日

山城国
大和国
河内国
和泉国
摂津国

金剛院

寛保二壬戌年五月十二日

[illegible]

河州壹井 桧現八幡 寺社務

多田隠岐病家代

多田如研

山城玉

大和玉

河内玉

和泉玉

摂津玉

右河州壹井桧現八幡寺社務漫

為助力勤化

御免事社事行運事之勤化状

於京去酉八月より寅十二月まで

糯粉守施目料私領寺社領在町

とも可被巡行罷志之事を物之

多少ありまじ可被蒙進告目料を

代役私領を領主地頭より可

申渡之

寛保二壬戌年五月十五日

右同断之

遠郡一宮神主

鈴木澤正

遠江国

駿河国

三河国

信濃国

遠州大宮神主

中村左京

遠江国

駿河国

三河国

右遠州一宮神主社役并大宮明神

社領漕事助力勤化
御免寺社奉行連印之勤化状
持参西十月より毎成十月まで
御料私領寺社領在所ニ於巡行
留志之事を相之多少ヲ以ハ
ニ於蒙進之御料を代官私領
を領之地頭より一ヶ月御ハ
右之通ニ於右御ハ

五月

寛保二壬戌年五月

遠州豊田郡二股村
清瀧寺

右清瀧寺右郡ハ
信康様　御廟并　御位牌而及
大破自力難叶付る

遠州
豫州
三郡

三ヶ国勤化　御免之事

公儀より茂朝之通被　御付ハ
御助ニ至ルハ自分ニ勤化ニ仕ル
勝手御用ニハ右大被之由ニ付金
百両之下ハ御後
公儀より御拝ニ百両ハ曾ハ御

依料之内を以年之の事を修復
仕ハ拝ニ付申後ハ
右之通申後ハ曾寺社修復金之
内より ニ付右後ハ

寛保三癸亥年二月廿三日

濃州南宮神社

惣代

貴陽玉
近江玉
伊勢玉
尾張玉
加賀玉
越前玉
越潭玉
右南宮神社及大破仰ニ付候ニ為助
力勤化

御見寄社ニ付連帯之勤化状持
条當寅年ニ丑年之見料私領ニ
社領之所ニ付返進仰ニ付志之業ニ
物之多少ニ付之候ニ寄進ニ付候ニ付
料之見代度私領ニ領主地頭
より下ニ付候ニ

寛保三癸亥年二月廿三日

京都

東福寺

松東福寺伽藍及大破ゆゑ日候度
為助力山城一国勧化
法免寺社奉行連印之勧化状持
条当亥年六月より同十二月中
法料私領寺社領在所ニ於廻
行ゆゑ志之事を物之多少ニ
よらず不及寄進旨法料を代支
私領を領主地頭ニ於ハ不申渡ハ
相之通ニ於ハ相弱ハ
亥三月

寛保三癸亥年八月五日
法月付ハ
嵯峨法輪寺堂社大破ニ付ハ
任先規例諸国勧化之

編旨を下さしむ
公儀より發達報を下ハ上ハ勅
化請ニ通行す聞き置ニ而失却
多ク排年月を經ハしも却る
修復之事ニ而ハ難成之事ニ付
於江戸屋敷ニ而ハ且り申候旨ハ
ハ依之難し通ハ
御也ハ冒ニ而存ニ執ハ
當表屋敷ニ分ハ法幣ハ役僧相

且り勅化し候ニ申ハ事ハ外所
支配ニ分ハ其所支配ハ其
り組中支配ニ而し兼ニ來ても
勅化ハ且しハ拙仕候旨法幣
ハ申ハ冒ニ進ニ候ニ者ニハ委細
ハ勅化ハ書載ニ事
一 勅化物ニ事來子年中ニ法
幣ハ請ハ仕候旨ニ申事
一 万石以下ニ而ニ知行所ハ而ニ

一

法代度分勤化能差且本加茂法
代官中より所立に當ては支
勤化物之後京都を法脇寺自坊
南地を深川永代寺地中勤化所
より請求下申事
於之頭向之に於ては拵之下致候
八月

寛保三癸亥年八月

大和国三脇明神
神主代
宮宮民部

山城
近江
河内
摂津
和泉

伊勢
右三隅社及大破仍之体修復為助
力勤化
御免

寛保三癸亥年九月

京清水寺
成就院

山城
大和
河内
和泉
摂津
右清水寺伽藍修復為助力勤
化
御免

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

延享元甲子年三月廿日

左近將監殿　目後
隱岐守殿

大目付　ん
目目付

掃丹天王寺鉄破損享保十四年
臣

公儀茂目蒙附之不易之日十六夫
年より請玉節化

御免許　御目者之成年之巡行者
源進之蒙附茂鉄者之分以節化物
毛袖之玉之前之塔社修復不相
調以信之お殘以雨之信仰之事ハ
物之多少ニよらず分銀ニ應し
今年蒙進す但しハお殘以雨之
目料ニ代支私銀を領主地頭
矣寺社銀茂近邊之民代官地頭
ハ而集源川留之町節化所まて

延享元甲子年三月

濱河玉龍宗郡

延享元甲子年三月

町田宗村

浅間豊積社神主

西郡宮内

右豊積社刀大破ゆゑ日修復為助

力強河一国勤化

御免

延享元甲子年三月

三州鳳来寺之内ニ而弘法堂去年
焼亡ニ付、同再建之儀寺院ゟ相願候
先年類焼之儀も同様ニ付、御修復ニ
候義ニ候ハヽ、此度茂同様再建も難成事
ニ候ハヽ、併同所祈禱等執行ニ付而右同
金百両被下候間、寺社修復料ニ為
可被渡旨、寺社奉行江申談ル

三月

延享元甲子年三月

下目黒
祐天寺

天英和尚願之、田畑之内拝領地之
内之境内四百坪ニ、抱地千六
百坪余添、都合二千坪拝領地ニ被
成下候間、寺社奉行江申談ル

一 右代地場上ヶ寺　御霊屋料ニ
追而寄附之地不残返地被申出

此日

延享元甲子年

此霊玉大社造營出来り候ニ付遷座ニ物入ニ而ニ付今五百疋
御下ニ付留ニ而ニ付被仰出ニ付社奉行
ニ而請ニ付

九月

延享元甲子年十二月

後宇大護院境内石清水八幡宮
末社幣帛殿護摩堂本地堂造立
ニ付諸役日西地蔵家方并江戸町中
御化御免大護院役僧来ニ三月ニ
八月中ニ巡行御化ニ而被仰出志之家
ニ物之多少ニよりて
有之通ニ而被仰付
奉進ニ被仰

十二月

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

為再建法會日當附之不可見之義
當地戴家方江戸町中勧化
御免許成事は別當菅原信頼役
僧當丑七月より同至十二月まで巡
行可致勧化は志之事を物之多
少すべきに可致當進は
如之聞可致其時は
六月

延享二乙丑年七月

三島明神社造營之事
公儀金千両日當附許成は只家當丑
正月在之は貸附は金九百拾六両余
之金子所立如之内先年之社小破
永之為修復料相借請
御付は三百両を銭五千余六百拾
拾六両余如造營入用すべき用不足
之所を伊豆渡河甲斐玉相輝武

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

金山旨事

右之通御下に旨事社ゟ申候

可被仰候

延享二乙丑年九月

出雲玉大社

社家相代

仲嘉之進

右大社玉帛請受者以ゟ毎年て

出旨者別に習信出之案を猶手帰

玉帛可請に此旨支配中石津様可

申通事

九月

延享二乙丑年十二月廿日

佐渡守殿御渡

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

右拔詳大祀社田古破ハ可修補
為助力上聖恩一恩勤化
御免

延享三丙寅年二月

其祀昭社護摩堂并饗來等為
修復料金少百両ハ下ハ可寺社修復
料之内ニ可下ハ海ハ也寺社事行

可ハ讀ハ
二月

延享三丙寅年二月

本朝某師寺熱代
地藏院

山城
大和

河内
和泉
摂津
右兼帥寺伽藍再興為助成之度
五畿内勧化之成
御免

延享三丙寅年六月

其神明
別当
金剛院
神主
西東豊前
内
西東乗女
右神明社所大破す其為修復料
御家附金記日之御用在内武家方

町方武藏一国勤化
御免被成下候

延享三丙寅年七月

豆州三島大明神
神主
矢田部伊織

三島大明神社去ゝ子年燒失ニ
付為造營国家附金所下ニ付府内
武家方伊豆濟河甲斐相模武藏
上野下野勤化去丑八月
御免被成下志ゝ業を始ゝ多少ニ
すゝめ事ニ取寄を以御料を代官
私領を地頭ニ社領を近邊ニ代
官ニ勤化ニ而集寄宝五月ニ
ニ江戸勤遠樽外勤化請ニ可
長城旨相願ニ而日限相立ニ以御

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

石見玉
出雲玉
因幡玉
伯耆玉
安藝玉
周防玉
長門玉

右物部大明神社先年數燒此
度再建ニ付為助成勅化

御免

延享三丙寅年九月

江州多賀大明神別当
不動院

右多賀大明神社刀大破ニ付熱屋
根為修復法家附し不毛ニ見し且
神社佛閣諸堂修復并遷宮

入角為助力神前大々神楽札は當
地武家方町方之外諸国不殊家
別に織り候
御免之故下ち社を行連帯之勤
化状不動院役僧持来御年々
西年ゟ七ヶ年之間は料私領
ち社領在町ニ於巡行所大々神楽札
家別に請之物之多少ニよらず志第
ニ於當進旨は料ちは代皮私領を

領之地所分ニ帯酒ハ
九月
右之通ニ於ち解ハ

延享三丙寅年十二月

幸都西大ち熱代
金剛院

播磨

貢作
侍前
侍中
侍後
安藝
周防
長門

右西大寺修營為助力山陽道八
ヶ王に庇廣糧淺之加持守弘之後

御免之成に付社事行連帯之書
付持來卯正月より酉十二月まで
七ヶ年之内金剛院代僧下故巡
行に習信仰之事を勤之多少
まゝに御穩要也如之ち一緒に
旨は料を任代貴私領を領之地に
より下に申候に
十二月
右之通下に相弱に

延享三丙寅年十二月

掾仲信吉明郎

神主

津守真韶

山城

大和

河内

和泉

掾津

右信吉神社佛閣破損可作為修復料出蒙附金之事云畿内勧化且清府内武家方寺社并町中勧化即免之成事也

延享三丙寅年十二月

河内国河内郡

平岡大明神社務

水走主殿

山城
大和
河内
和泉
摂津

右平岡社及大破ニ付為修復助
力勧化
御免

延享四丁卯年二月廿三日
信濃守殿御渡
御目付ヘ

達江田周智郡山住村
熊野権現神主
山住伊豫

右熊野権現本社之人寄居并高
根明神洋殿平外末社等為
修復料御家附御祈禱之達君

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

如其神室且道具為此修復料者
下之
如其此者三冊相應者為此修復
者下之習平者下之中場也
六月

延享四丁卯年六月

意成院

且內之之且祈禱者　御月次日
神田明神表門服明地八百坪禮
之而洋借者
御祈之

延享四丁卯年七月廿九日
加賀守殿御後
且月付也

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

卯
115
1

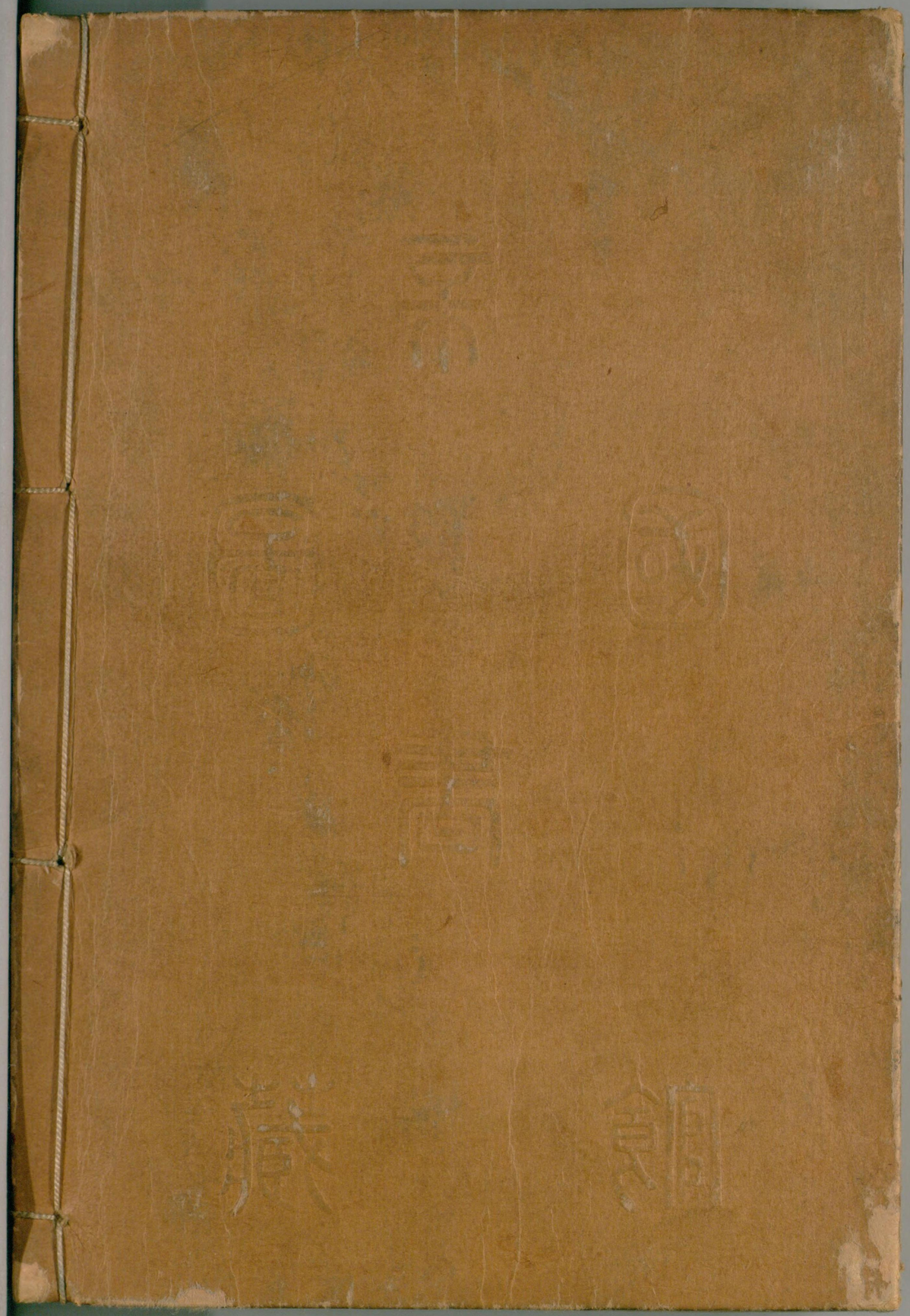
通十ヶ年之間當宮突
御免ニ御付内陣造立之材木百
本ニ御下置ニ御下ニ御下ニ意ニ御下ニ
中ニ御下ニ御下ニ御下ニ御下ニ
御使ニ
九月

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

卯
66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用